

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名	外国語教育推進事業		担当部署	教育委員会 教育支援室	
総合計画体系			根拠法令 計画など	『英語が使える日本人』育成のための戦略構想(H14)、学習指導要領(H20)、『グローバル化に対応した英語教育改革実施計画』(H25)『世界にはばたく鳴門の子ども育成プラン』(H25)	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 3年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと		終期	未定
(小項目)		教育行政			
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	6	教育支援体制の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理
事業対象	市内幼・小・中学校児童・生徒	
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力、確かな英語力を身につけた「世界にはばたく鳴門の子ども」を育成する
事業計画	29年度に何を計画していたか	ALTの各校、各園への派遣について ○中学校への派遣 年間授業時数(48H/140H) 総時数の34%(全国平均約21.1%) ○小学校への派遣 年間授業時数 5、6年(25H/40H) 総時数の63%(全国平均約61.7%)、3~4年(12H/12H) 総時数の100% 1~2年(10H/10H) 総時数の100% ○幼稚園への派遣 年間訪問数 (3回)
成果目標	事業目標の達成度合	28年度 29年度 30年度 31年度 32年度 単位
成果目標	事業目標の達成度合	中学3年生のアンケート結果「外国の人に英語で話しかけられたら」の項目に「英語で答える」と回答する割合 55 55 57 58 59 %

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①「世界にはばたく鳴門の子ども」育成事業推進プロジェクトチーム会議の開催(8月、3月) ②市内全中学生対象の英検IBAの結果の検証 ③英検受験料補助事業の奨励(市内全中学生、全級対象、1人年1回)及び学生サポーターによる指導支援 ④市内全中学生(6月)、全小学4、5、6年生(2月)対象の意識調査の実施と結果の検証 ⑤グローバル人材講演会やイングリッシュデイキャンプの実施 ⑥小中学校教員対象の夏季研修会の実施(7回) ⑦小中高連携外国語教育研究委員会の活動の充実					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名	28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標	1 幼・小・中学校訪問日数	1,275	1,478	1,489	1,489	1,489	日
活動指標	2 英検受検者数(3級以上)	241	260	270	280	290	人
成果指標	中学3年生のアンケート結果「外国の人に英語で話しかけられたら」の項目に「英語で答える」と回答する割合	54	57	-	-	-	%
成果指標	目標達成率(実績/目標)		103.6	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	1	36,870	36,871
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	1	36,870	36,871
		決算額	0	0	0	1	36,078	36,079
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
	2.0	0.0	14,468	50,547				

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	30,741	36,079	37,627	37,627	37,627
	うち一般財源	30,741	36,078	37,626	37,626	37,626
	人件費	14,266	14,468	14,468	14,468	14,468
	総事業費	45,007	50,547	52,095	52,095	52,095

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		ALT8名体制が確立し、市内各幼稚園や小中学校への訪問数が前年度より確保できた。
	効率性	A:効率的だった		英検受検者数は昨年度の目標値や数値を上回ることができた。
②成果に対する評価	指標名	中学3年生のアンケート結果「外国の人に英語で話しかけられたら」の項目に「英語で答える」と回答する割合		「外国の人に英語で話しかけられたら」の問いに「英語で答える」と答えた中学3年生の割合は、前年度よりも3%上昇し、目標を達成できた。
	目標	55	%	
	実績	57	%	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		ALTの幼・小・中訪問日数と英検受検者数や、「外国の人に話しかけられたら英語で答える」生徒の割合は目標に達しており、A評価としたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	新学習指導要領実施への移行措置に伴い、外国語教育の在り方、移行期間中の時数等について現場からの意見を反映し、協議や改善を行い、2年後の円滑な実施をめざす。「外国の人に英語で話しかけられたら英語で答える」と回答する中学3年生の割合をさらに増やしていくため、モチベーションの喚起や英語を使う場の設定、及び各小中学校における授業改善のために、研修会や授業研究会の充実を図る。また、英検補助金制度について、奨励と検証を工夫し、英検受検率と中学卒業時英検3級以上の合格率の向上を図る。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	移行期間中の授業数や内容等について、現場からの意見を反映させながら、新学習指導要領完全実施に向け、検討委員会等で検証・改善を行う。児童生徒に「豊かな国際感覚とコミュニケーション力、確かな英語力の育成」を図るために、小中高連携の視点から課題や取組を検討したり、教員が共有できるよう情報発信を行ったり、児童生徒のための授業改善につながる研修を工夫したりする。また、英検補助金制度についての検証を行い、さらに効果的な制度に向けて見直しや広報活動の工夫をし、英検受検率や英検3級以上の合格率の向上を図る。			
	H31年度	平成32年度からの小学校、平成33年度からの中学校新学習指導要領完全実施が滑らかに実施できるように、検証・改善する。児童や生徒の英語学習への意欲を喚起し、体験的な活動の内容等の検討をする。英検の受検者数や英検3級以上の合格者数のさらなる増加に向け、広報活動を工夫する等効果的な対策を検討する。			